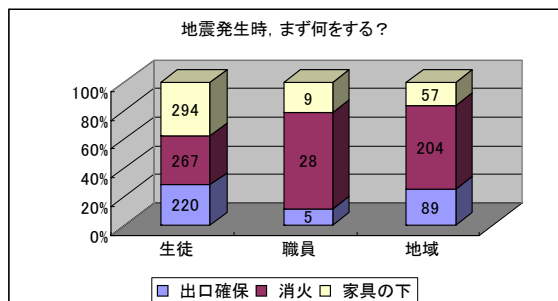


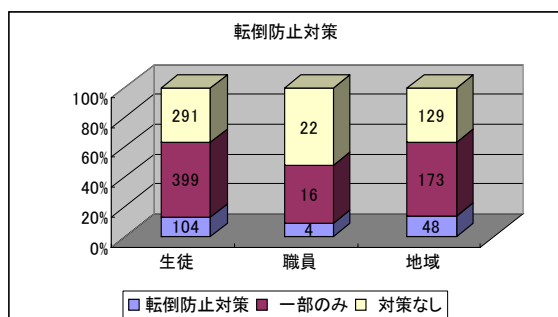
「防災教育～命を守ろう～」

災害が発生した場合、自分は「生き残っている」ことが当然であると考えがちですが、まずは「生き残る」ためにどうしたらよいのでしょうか。

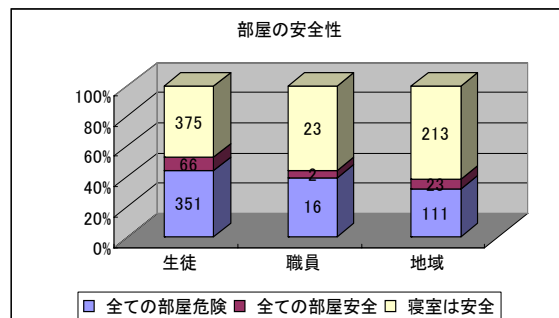
次のグラフは、5月に御協力いただいたアンケートの結果の一部です。



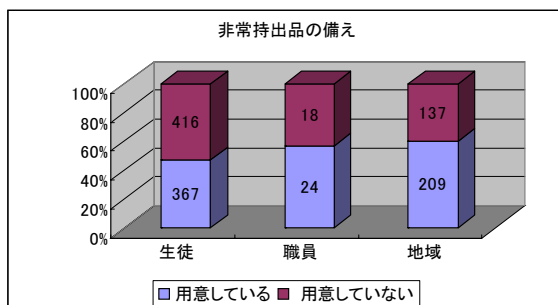
地震発生時、生徒の37.6%は「テーブルなど丈夫な家具の下にもぐる」と回答していますが、職員は66.7%、地域の皆様は58.3%が「すばやく火を消す」と回答しています。今年5月、文部科学省は大地震時の行動の有効性を検討した結果、「火を消す」「非常口を確保する」よりも「無理して動かず、けが防止が優先である」と見直しの報告書をまとめています。



「転倒防止対策はしていない」と回答している生徒は36.6%、職員は52.4%、地域の皆様は36.9%でした。



「全ての部屋で危険がある」と回答している割合は生徒44.3%、職員39%、地域の皆様32%でしたが、「ものが倒れたり落ちたりしても安全な場所で寝ている」と回答している割合は、生徒47.3%、職員56.1%、地域の皆様61.4%でした。



非常持出品については、生徒の53.1%が用意していないと回答したのに対し、地域の皆様は60.4%が用意していると回答しています。

その他、大災害時への備えで「地域の連携などを強化して地域ぐるみで災害に備える」「自分自身で災害に備える」ことが大切であると多くの方が回答しています。

いつ起こるかわからない災害に対して<心>も<必要なもの>も備えておくことが必要です。

＜お知らせ＞

◎8月4日(水)・5日(木) 防災学習会
◎9月1日(水) 九都県市合同防災訓練見学

10:00～15:30 本校にて
10:00～14:00 君津市西君津地先
(本校より大型バスにて往復)

連絡先：千葉西高等学校（担当：石塚）TEL 043-277-0115

防災豆知識

出典：「備えあれば憂いなし」千葉県教育委員会

1995年1月17日 午前5時46分

阪神・淡路地域を激震が襲い、わずか10数秒の大地の揺れが6,400人余の尊い命を奪いました。

地震が人の命を奪うことはありません。地震によって倒れてきたものや落ちてきたもので、けがをしたり亡くなることがあります。

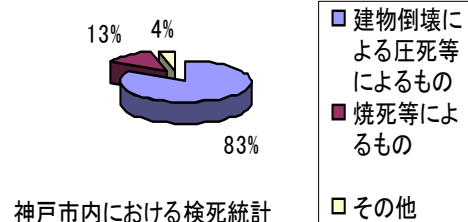
阪神・淡路大震災における死亡原因は、倒壊した家屋や転倒・落下した家具類の下敷きになったことによる圧迫死が83%を占めています。

また、

ダンス 倒れた
冷蔵庫 歩いた
テレビ 飛んだ
ガラス 降った
ピアノも飛んだ

とされています。

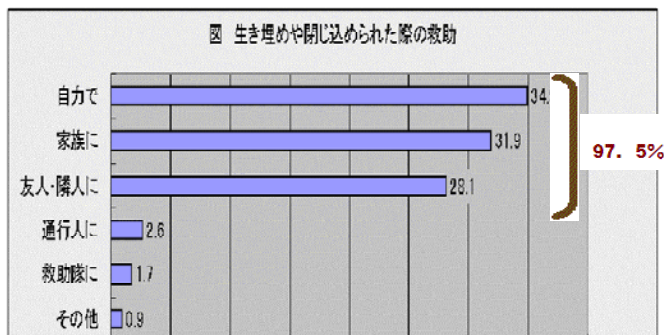
阪神・淡路大震災における死亡原因



神戸市内における検死統計
(兵庫県監察医 平成7年)

是非、転倒防止や落下防止、飛散防止等の対策をしておいてください。

阪神・淡路大震災のとき誰に助けられたか



日本火災学会の調査によると、「自力で」と回答した人が34.9%で最も多く、続いて「家族に」31.9%、「友人・隣人に」28.1%、「通行人に」2.6%となっています。家の下敷きになった人々の多くを助け出したのは、自助・共助の力（97.5%）だったのです。自衛隊・消防・警察などの救助隊ではありませんでした。

5月に行ったアンケートでも、「自分自身」や「地域ぐるみ」で災害に備えることは、多くの人が大切だと回答しています。

(社)日本火災学会:「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による

具体的にどのように何を備えればよいのか、考えてみましょう。

<備え1>

<備え2>

<備え3>

<備え4>

心

命の大切さを伝えることはもちろんのこと、自分の命は自分で守るという心構えを身につける。

知識

自然災害の発生メカニズム、地域の自然環境、災害や防災についての知識、情報収集や安否確認の方法を学ぶ。

技能

命を守る方法や、被害を小さくする方法など、災害時における行動をシミュレーションしておく。

施設
設備

身の回りの安全点検、建物の倒壊や損壊の危険性の点検を実施し、非常持出品などの備蓄品を準備する。



防災教育チャレンジプラン